

研究部門—東アジアに於ける密教の流传

第三回 バングラデシュ密教美術調査概要

密教文化研究所では、平成二年度より密教に関する研究事業の一環として、バングラデシュの仏教遺品・遺跡の調査を実施しています。第一回の現地調査（平成二年度）は平成三年四月三日から十日にかけて行ない、第二回の現地調査（平成三年度）は平成三年十二月二十一日から翌同四年一月七日にかけて行ないました。

続いて平成四年度の研究事業として、第三回現地調査を平成四年十一月三十日より十二月二十日にかけて実施しました。今回の現地調査には、越智淳仁高野山大学教授（団長）、乾仁志同研究所講師、杉本究同大学職員の三名が派遣され、とくに過去二回の調査で及ばなかった博物館や仏教遺跡を中心に調査を行ないましたが、旅程の関係上すでに調査した地も一部含めました。

なお、今回の調査における中心課題は、ラーマパール王のジャガッタラ寺址を確認することでしたが、その現状については、越智淳仁教授により本誌上に報告されていますので御覧ください。また今回仏教遺品については、バングラデシュの北西端まで足を運び、デйнаジブル博物館やラングプル博物館を視察する機会を持ちましたが、現在両博物館には仏教遺品はほとんどなく、デйнаジブル博物館にターラーとされている黒玄武岩のものが一点確認されただけです。しかし今回マハスタン博物館で展示されていた遺品の中に、金剛界大日如来の浮彫（黒玄武岩）が一点確認されました。これは柱か何かに刻まれたもので、独立した彫像でないのが残念ですが、北ベンガルのヴァレンドラ地方における、中期密教の痕跡を示す遺品として興味深いものでもあります。今回の調査箇所と調査日程は以下の通りです。

【調査箇所】

一、仏教遺跡に関して

- 1 マハスタン (Mahasthan) 遺跡群
    - マハスタンガルフ (Mahasthangarh)
    - ゴビンダビタ (Gobinda Bita)
    - ゴークルメータ (Gokul Medh)
    - ヴィハール (Vihar)
    - ヴァスヴィハール (Vasu Vihara)
  - 2 パハルブル (Paharpur) 遺跡
    - ソーマプラキ (Somapura, Dharmapala Vihara)
    - サティヤピルビタ (Satyapir Bita)
  - 3 パハルブル周辺
    - ハルドヴィハール (Halud Vihara)
    - アグラデイグン (Agradigun)
    - ジャガッタラキ (Jagadala vihara)
  - 4 デйнаジブル (Dinaipur Dis.)
    - シタコット寺 (Sitakot Vihara)
  - 5 マイナマティ (Mainamati) 遺跡群
    - サルバンヴィハール (Salban Vihara)
- 一、その他の遺跡
- ジョーギルヴァバン (Jogir Vabhan)
  - ジョーギゴバ (Jogigoba)
  - シャルバリ (Sharbari)
  - モンガルバリ (Mongal Bari)
  - カントナガル (Kantanagar)
- 一、仏教・ヒンドウー教遺品に関して

- 1 バングラデシュ国立博物館 (Bangladesh National Museum)
  - 2 ヴァレンドラ博物館 (Varendra Research Museum)
  - 3 マハスタン博物館 (Mahasthan Museum)
  - 4 パハルプル考古学博物館 (Paharpur Archaeological Museum)
  - 5 ラングプル博物館 (Rangpur Research Museum)
  - 6 ダイナジプル博物館 (Dinajpur Museum)
  - 7 マイナマティ博物館 (Mainamati Museum)
  - 8 チッタゴン大学付属博物館 (Chittagong University Museum)
- 一、その他
- 1 バングラデシュ考古局 (Department of Archaeology and Museum)
  - 2 チッタゴン大学 (Chittagong University)
  - 3 チッタゴンヴィハーラ (Chittagong Vihara)
  - 4 マハムニ村 (Mahamuni)
  - 5 アブルキル村 (Aburkhi)

【調査日程】

- |        |                                                                    |     |
|--------|--------------------------------------------------------------------|-----|
| 十一月三十日 | 大阪発、バンコク着。                                                         |     |
| 十二月 一日 | バンコク発、ダッカ着。                                                        |     |
| 二日     | バングラデシュ国立博物館を訪問し、館長に会見する。<br>バングラデシュ考古局を訪問し、長官に会見し調査協力を<br>をお願いする。 | 十二日 |
| 三日     | バングラデシュ考古局を訪問する。                                                   | 十三日 |
| 四日     | バングラデシュ国立博物館を訪問する。                                                 | 十四日 |
| 五日     | ダッカ発、ラジシャヒ着。                                                       | 十五日 |
|        | ヴァレンドラ博物館にて調査撮影を行う。                                                |     |
| 六日     | ヴァレンドラ博物館にて調査撮影を行う。                                                | 十六日 |
|        | 車にてラジシャヒからボーグラに向う。                                                 |     |
|        |                                                                    | 十一日 |
|        |                                                                    | 十日  |
|        |                                                                    | 九日  |
|        |                                                                    | 八日  |
|        |                                                                    | 七日  |
- 考古局のボーグラ支局を訪問する。  
ゴビンダピタを視察し、マハスタン博物館にて調査撮影を行って後、マハスタンガルフを視察する。  
車にてボーグラからパハルプルに向う。  
途中ゴークルメーダ、ジョーギルヴァパン、ヴィハール、  
ヴァスヴィハールを視察する。  
パハルプルにて、博物館およびソーマプラー寺、サティヤ  
ピルピタを視察する。  
ジョーギゴバ、シャルバリ、ハルドビハールを視察す  
る。  
アグラダイグン、ジャガッタラ寺、モンガルバリを視察  
する。  
車にてパハルプルからボーグラに向う。  
考古局のボーグラ支局を訪問する。  
マハスタン博物館を見学する。  
車にてボーグラからラングプルに向う。  
途中シタコット寺を視察する。  
ラングプル博物館にて調査撮影を行う。  
カントナガル、ヒンドウー寺院を視察し、ダイナジプル  
博物館にて調査撮影を行う。  
サイドプル発、ダッカ着。  
車にてダッカからチッタゴンに向う。  
途中コミラのマイナマティ博物館を見学し、サルバンヴィ  
ハーラを視察する。  
チッタゴン大学を訪問し、同大学付属博物館にて写真撮  
影を行う。  
チッタゴンヴィハーラを訪問して後、マハムニ村に行き、

渡辺天城師に会見する。その後、アブルキル村を訪問する。

チッタゴン発、ダッカ着。

十七日 バングラデシユ考古局を訪問する。

十八日 ダッカ市内見学。

十九日 ダッカ発、バンコク着。

二十日 バンコク発、大阪着。

弘法大師著作研究部門

○平成四年度、『定本弘法大師全集』第七卷（平成四年六月刊）・第五卷（平成五年一月刊）の二冊を上梓した。第七卷には、『髻髻指帰』一卷、『三教指帰』三卷、『高野雜筆集』二卷、『拾遺性靈集』二卷の四作品と、参考資料として『發揮拾遺編』一卷、『髻髻指帰序註』二卷、『遺言・遺誠』類六種を収載した。今回、特に、金剛峯寺当局的御英断により、平安時代の高野山に関する根本史料である『御手印縁起』・『太政官符案并遺告』・『遺告諸弟子等』の絵図部分の写真を掲載することができたことを、皆様とともに喜びたい。また、当巻では、『高野雜筆集』の別本と考えられる『拾遺性靈集』をはじめ活字化した。つぎに第五卷には、『三昧耶戒序』一卷、『太上天皇准頂文』一卷、『五部陀羅尼問答偈讚宗秘論』一卷、『念持真言理觀啓白文』一卷、『梵字悉曇字母并釈義』一卷の五作品と、参考資料として『秘蔵記』一卷、『秘密三昧耶仏戒儀』一卷、『金剛界念誦次第』二卷、『大悉曇章』二卷を収載した。このなか、『金剛界念誦次第』には「弘仁七年二月十三日於神護寺／大阿闍梨宝前奉読畢」なる本奥書がみられ、この奥書を信ずるかぎり、その成立が弘法大師の時代まで遡りうることから注目される次第であり、はじめて活字化されたものである。

○平成四年度の聖教調査は、『定本弘法大師全集』に底本・校合本として使用する典籍を中心に、高野山靈宝館・宝亀院・正智院・仁和寺・東寺・高山寺・大谷大学図書館・大須観音寶生院・大東急記念文庫・お茶の水図書館において行なった。調査にあたり、御便宜・御協力たまわりました所蔵者ならびに関係各位に、あらためて甚深の謝意を申し上げる。

平成四年度調査典籍

一 高野山靈宝館（5・12）※最下段は函・典籍番号  
即身成仏品 一卷 平安時代写 重文

真実經文句 一帖 寛文7年写普通・教21・5

法華經密号 一帖 延宝4年写 21・6

梵網經開題 一冊 応永24年写 21・7

最勝王經開題 一帖 永享7年写 21・8

一切経開題 一帖 大永8年写 特239・5

金剛頂経開題 一帖 桃山時代写 39・15

一切経開題 一帖 平安末期写 39・19

（以上高野山宝寿院聖教）  
（甲田博史・後藤雅則）

二 高野山宝亀院（6・23）※最下段は函番号

一切経開題 一帖 文明16年写 132

金剛頂経開題 一帖 室町時代写 〃

大日経開題 一帖 明応9年写 〃

大日経開題 一帖 正平7年写 〃

法華經密号 一帖 大永3年写 138

法華經密号 一帖 天文18年写 140



般若心経秘鍵 一帖 享徳4年刊 余丙45  
 般若心経秘鍵 一冊 元録5年刊余大3967  
 般若心経秘鍵 一冊 元和5年写余大4399  
 (甲田博士)

六 お茶の水図書館(成實堂文庫、7・21~23)  
 (武内孝善・中村本然・跡部正紀)  
 般若心経秘鍵 一帖 永和4年刊  
 遍照發揮性靈集 卷第二 一卷 平安末期写  
 (松長有慶・武内孝善)

五 大須観音實生院(7・7~9) ※最下段は函・典籍番号

釈摩訶衍論指事 一帖 嘉暦3年写 19・7  
 釈摩訶衍論指事 一帖 鎌倉末期写 19・8  
 釈摩訶衍論指事 一帖 嘉慶2年写 19・10  
 釈摩訶衍論指事 一帖 鎌倉末期写 19・11  
 声字実相義 一帖 鎌倉時代写 21・44  
 声字実相義開秘紗 卷上 一冊 天正8年写 21・45  
 声字実相義 一帖 室町初期写 21・46  
 卍字義 一冊 康永3年写 29・14  
 卍字義 一帖 鎌倉時代写 29・15  
 卍字義 一帖 至徳元年写 29・16  
 卍字義 一帖 鎌倉末期写 29・17  
 卍字義 一帖 貞和2年写 29・18  
 卍字義 一帖 室町時代刊 29・19  
 声字実相義 一帖 貞和2年写 29・23  
 声字実相義 一冊 室町時代写 29・24  
 声字実相義 一帖 室町時代写 29・26  
 声字実相義 一冊 室町時代写 29・28  
 声字実相義 一冊 室町時代写 29・29  
 辨頭密一教論 一帖 永和元年写 29・31  
 声字義 一紙 室町時代写 57・73  
 声字実相義 一帖 室町時代写 80・78

七 大東急記念文庫(7・21~23)  
 弁頭密一教論 一帖 天喜5年写  
 遍照發揮性靈集 卷第一、四、六、七、九 五卷 平安末期写  
 不空三藏表制集 卷第六 一卷 平安初期写  
 (松長有慶・武内孝善)

八 東寺(観智院金剛藏聖教、8・27~28) ※最下段は函・典籍番号

梵網菩薩心地品開題 一卷 康安2年写 22・30  
 禅林寺式 一卷 院政期写 108・3  
 大日経開題 一冊 応永15年写 109・3  
 金剛頂経開題 一冊 応永11年写 109・5  
 神供次第 一帖 文和3年写 131・67  
 僧申文 一卷 貞永元年写 146・1  
 秘密曼荼羅十住心論 十帖 建長7年刊 155・6  
 遍照發揮性靈集 十帖 鎌倉時代刊 155・8  
 大日経開題 一帖 鎌倉初期写 291・26  
 真言付法血脉 仁和寺 一卷 鎌倉後期写 特4・10  
 (武内孝善・後藤雅則・跡部正紀)

九 高野山正智院(9・16) ※最下段は函番号  
 卍字義釈 一帖 弘安元年写 19

法華經開題	一帖	安元2年写	19
法花經開題	一帖	永享2年写	〃
法華經開題	一冊	慶長3年写	〃
法華開題七本	一帖	室町時代写	〃
法花開題	一帖	室町時代写	〃
法花開題	一帖	室町時代写	〃
法花密号	一帖	室町時代写	〃
大日經開題	一帖	弘治3年写	〃
大日經開題	一帖	寛元3年写	〃
大日經開題	一帖	永享4年写	〃
大日經開題六本	一帖	写	〃
金勝王経秘密伽陀	一帖	保延4年写	〃
金剛頂経開題	一冊	慶長9年写	〃
真言付法傳	一帖	承保3年写	294
		(武内孝善・甲田博士・後藤雅則・跡部正紀)	
十 高山寺 (1・11・12)		※最下段は函・典籍番号	
法華經開題	一帖	長寛3年写第一部	258
法華經開題	一帖	長寛3年写	264
即身成仏義	一帖	写第四部127・9	9
积論指事 下	一帖	院政期写	162・22
积論指事 上	一帖	院政期写	191・179
		(武内孝善・甲田博士・後藤雅則)	

### 平成四年度寄贈図書及び交換寄贈雑誌目録

以下の寄贈図書及び交換誌は平成四年四月より平成五年三月末までの間に登録したものです。当研究所の図書充実のために関係諸機関ならびに関係諸氏には今後とも御協力と御支援をお願い申し上げます。

#### 寄贈図書

- 『大倉山夏季公開講座』1 大倉精神文化研究所編 (同研究所 平成4年8月) 発行所殿
- 『霞浦』 楊人憬編 (華夏出版社 昭和63年10月) 日中友好訪日団殿
- 『空海』 藤橋千秋著 (平成4年) 著者殿
- 『空海研究』 陳国強編 (華夏出版社 平成2年8月) 日中友好訪日団殿
- 『空海入唐行迹印譜』 福建省宁德地区霞浦空海研究会編 (同研究会 昭和63年10月) 日中友好訪日団殿
- 『高野街道を歩く』 武藤善一郎著 (産経新聞生活情報センター 平成4年6月) 著者殿
- 『釈摩訶衍論』全 那須政隆著 (成田山仏教研究所 平成4年12月) 同研究所殿
- 『釈摩訶衍論講義』 那須政隆編 (成田山仏教研究所 平成4年12月) 同研究所殿
- 『性靈集一字索引』 静慈圓編 (東方出版 平成3年9月) 編者殿
- 『諸仏功德物語』 頼富本宏著 (普通寺教学振興会編 平成4年6月) 同教学振興会殿
- 『真言宗食事作法解説』 浅井寛超著 (高野山出版社 平成4年3月) 著者殿

- 『高岡隆心和尚中院流伝授記録』 高岡隆心著  
 (東方出版 昭和63年11月) 中院流伝授記念会殿
- 『第12回 高野山大宝蔵展』 高野山靈宝館編  
 (高野山靈宝館 平成3年9月) 小堀裕弘殿
- 『定本弘法大師全集』第5卷(2冊) 密教文化研究所弘法大師著作研究会編  
 (同研究所同研究会 平成5年1月) 同研究所同研究会殿
- 『定本弘法大師全集』第7卷(2冊) 密教文化研究所弘法大師著作研究会編  
 (同研究所同研究会 平成4年6月) 同研究所同研究会殿
- 『特別展 密教工芸』 奈良国立博物館編  
 (同博物館 平成4年4月) 乾仁志殿
- 『十津川の寺跡をさぐる』 横谷正光著  
 (十津川村教育委員会 平成3年3月) 十津川村歴史民俗資料館殿
- 『日中書法作品展覧集』 福建省霞浦旅遊局編  
 (平成2年12月) 日中友好訪日団殿
- 『能について言いたいこと』 川瀬一馬著  
 (大東急記念文庫 平成5年3月) 大東急記念文庫殿
- 『ハイデッガー賛述』 川原栄峰著 (南窓社 平成4年10月) 安樂寺殿
- 『般若心経の道』 飯島大千雄著 (慈光寺 平成5年2月) 著者殿
- 『ひろみちやが語る「人間空海」』 ひろみちや著  
 (真言宗善通寺派青年会 平成4年4月) 同青年会殿
- 『仏陀の前生』 A・フーシエ著 (東方出版 平成5年3月) 藤田光寛殿
- 『平和の課題と宗教』 中央学術研究所編  
 (佼成出版社 平成4年) 同研究所殿
- 『墨美』第228号 森田子龍編 (墨美社 昭和48年2月) 乾仁志殿
- Michael Hahn, *Haribhaija and Gopadatta, TWO authors in the Succession of  
 Āryasāra on the Rediscovery of Parts of their Jātakaśālas, Second Edition  
 Thoroughly Revised and Enlarged, Studia Philologica Buddhica Occa-*
- stional Paper Series I. Tokyo : The International Institute for Buddhist  
 Studies, 1992.
- Ronald E. Emmeric, *A Guide to the Literature of Khotan, Second Edition Thor-*  
*oughly Revised and Enlarged, Studia Philologica Buddhica Occasional*  
*Paper Series III. Tokyo : The International Institute for Buddhist Stu-*  
*dies, 1992.* 以上発行所殿
- Paul Harrison, *Dharma-kinnara-rāja-pariprcchā-sūtra: A Critical Edition of the*  
*Tibetan Text (Recension A) based on Eight Editions of the Kanjur and the*  
*Dunhuang Manuscript Fragment, Studia Philologica Buddhica Mono-*  
*graph Series VII. Tokyo : The International Institute for Buddhist Stu-*  
*dies, 1992.*
- Marek Mejer, *Kṣemendra's Bodhisattvaśāntanakaśāla, Studia and Materials,*  
*Studia Philologica Buddhica Monograph Series VIII. Tokyo : The Inter-*  
*national Institute for Buddhist Studies, 1992.* 以上発行所殿
- Akira Yiyama, *A Select Bibliography on the Sanskrit Language for the Use of*  
*Students in Sanskrit, Bibliographia Indica et Buddhica Pamphlet, No.1.*  
 Tokyo : The Library of the International Institute for Buddhist Studies,  
 1993. 発行所殿
- The Institute of Buddhist Studies, *General Catalogue.* Berkeley : The Insti-  
 tute of Buddhist Studies, 1991. 発行所殿
- Eiho Kawahara, *Kōbo Daishi Kakai Ausgewählte Schriften.* München :  
 Indicum, 1991. 安樂寺殿
- The Institute of Buddhist Studies, *Pacific World, New Series No.7.*  
 Berkeley : The Institute of Buddhist Studies, 1991. 発行所殿
- Roberto Caravaggi, *San Francesco.* Milano : Fabbri Editori, 1991.  
 村上保壽殿
- Yuhei Matsunaga, *The Gohyosamaja Tantra, New Critical Edition.* Osaka :

Toho Shuppan, 1978.

松長有慶殿

○Shoren Ihara and Zuiho Yamaguchi, *Tibetan Studies, Proceeding of the 5th Seminar of the International Association for Tibetan Studies Naria* 1989  
2 Volumes, Naria : Naritasa Shinshoji, 1992. 成田山新勝寺殿

## 交換寄贈雑誌

- 1 アジア・アフリカ文化研究所研究年報(第26号)  
東洋大学アジア・アフリカ文化研究所編 (同研究所) 平成4年3月
- 2 アジア研究所紀要(第19号)  
亜細亜大学アジア研究所編 (同研究所) 平成5年2月
- 3 叡山学院研究所紀要(第15号) 叡山学院 (同学院) 平成4年11月
- 4 大倉山論集(第31輯) 大倉精神文化研究所編 (同研究所) 平成4年3月
- 大倉山論集(第32輯) (同研究所) 平成4年12月
- 5 大谷大学真宗総合研究所紀要(第9号)  
大谷大学真宗総合研究所編 (同研究所) 平成4年3月
- 6 かがみ(第28・29合併号) 大東急記念文庫編 (同記念文庫) 平成4年3月
- かがみ(第30号) (同記念文庫) 平成4年3月
- 7 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告(第16集)  
神奈川大学日本常民文化研究所編 (同研究所) 平成4年
- 8 紀州経済史文化史研究所紀要(第12号)  
和歌山大学紀州経済史文化史研究所編 (同研究所) 平成4年3月
- 9 教化研修(第35号) 駒沢大学曹洞宗教教化研修所編 (同研修所) 平成4年3月
- 10 京都女子大学宗教文化研究所研究紀要(第5号)  
京都女子大学宗教文化研究所編 (同研究所) 平成4年3月
- 11 光華女子大学研究紀要(第29集) 光華女子大学編 (同大学) 平成3年12月
- 光華女子大学研究紀要(第30集) (同大学) 平成4年12月

12 光華女子短期大学研究紀要(第29集)

光華女子短期大学編 (同短期大学) 平成3年12月

光華女子短期大学研究紀要(第30集)

(同短期大学) 平成4年12月

13 皇学館大学神道研究所紀要(第8巻)

皇学館大学神道研究所編 (同研究所) 平成4年3月

14 国際シンポジウム(第4集)

国際日本文化研究センター編 (同センター) 平成3年12月

15 国際日本文学研究会集會議録(第15回)

国文学研究資料館編 (同資料館) 平成4年3月

16 嵯峨美術短期大学紀要(第18号)

嵯峨美術短期大学編 (同短期大学) 平成4年12月

17 宗教文化研究所紀要(第10号)

国士館大学宗教文化研究所編 (同研究所) 平成4年3月

18 商業史研究所紀要(第2号)

大阪商業史研究所編 (同研究所) 平成4年8月

19 真宗文化——真宗文化研究所年報——(創刊号)

真宗文化研究所編 (同研究所) 平成4年5月

20 人文学会紀要(第25号)

国士館大学文学部人文学会編 (同学会) 平成4年10月

21 人文研紀要(第14号)

中央大学人文科学研究部編 (同研究所) 平成4年8月

人文研紀要(第15号)

(同研究所) 平成4年8月

人文研紀要(第16号)

(同研究所) 平成4年8月

22 西山学会年報(第2号)

西山学会編 (同学会) 平成4年6月

23 西山学報(第40号)

西山短期大学編 (同短期大学) 平成4年3月

24 禅研究所紀要(第20号)

愛知学院大学禅研究所編 (同研究所) 平成4年3月



- 25 禅の世界(第2輯) 愛知学院大学禅研究所編 (同研究所 平成4年3月)
- 26 筑紫女学園大学紀要(第5号) 筑紫女学園大学紀要編集委員会編 (同大学 平成5年1月)
- 27 筑紫女学園短期大学紀要(第28号) 筑紫女学園短期大学紀要編集委員会編 (同短期大学 平成5年1月)
- 28 チベットの論理学研究(第3巻) チベットの論理学研究会編 (東洋文庫 平成3年3月)
- 29 中央学術研究所紀要(第21号) 中央学術研究所編 (同研究所 平成4年12月)
- 30 中央大学人文科学研究所研究叢書(第9号) 中央大学人文科学研究所編 (同研究所 平成4年6月)
- 31 中央大学人文科学研究所研究叢書(第10号) 中央大学人文科学研究所編 (同研究所 平成5年3月)
- 32 天台学報(第34号) 叡山学院 中央大学人文科学研究所編 (同研究所 平成4年3月)
- 33 伝道参考シリーズ(第5号) 天理大学おやさと研究所編 (同研究所 平成4年9月)
- 34 東京大学史料編纂所研究紀要(第2号) 東京大学史料編纂所編 (同史料編纂所 平成4年3月)
- 35 東京大学史料編纂所報(第26号) 東京大学史料編纂所編 (同史料編纂所 平成4年3月)
- 36 東京立正女子短期大学紀要(第20号) 東京立正女子短期大学編 (同短期大学 平成4年3月)
- 37 同朋学園仏教文化研究所紀要(第14号) 同朋学園仏教文化研究所編 (同研究所 平成4年3月)
- 38 東洋学術研究(第31巻第2号(通巻129号)) 東洋哲学研究所編 (同研究所 平成4年9月)
- 39 成田山仏教研究所紀要(第15号特別号1) 東洋学術研究(第32巻第1号(通巻130号)) 成田山仏教研究所編 (成田山新勝寺 平成5年2月)
- 成田山仏教研究所紀要(第15号特別号2) 成田山新勝寺 平成4年3月
- 40 仏教学報(第28輯) 東国大学校仏教文化研究院編 (同研究院 平成3年11月)
- 41 仏教研究(第21号) 国際仏教徒協会編 (同協会 平成4年3月)
- 42 仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書(第22集) 仏教美術研究上野記念財団助成研究会編 (同研究会 平成4年3月)
- 43 仏教文化(第26巻通巻29号) 東京大学仏教青年会編 (同青年会 平成4年8月)
- 44 仏教文化論集(第6輯) 川崎大師教学研究研究所編 (大本山川崎大師平間寺 平成4年11月)
- 45 文研会紀要 愛知学院大学院文研会編 (同文研会 平成4年3月)
- 46 平和と宗教(第11号) 庭野平和財団平和研究会編 (同研究会 平成4年8月)
- 47 密教文化(第17号) 高野山大学密教研究会編 (同研究会 平成3年12月)
- 48 民具マンスリー(第25巻1号) 神奈川大学日本常民文化研究所編 (同研究所 平成4年4月)
- 民具マンスリー(第25巻2号) 同研究所 平成4年5月
- 民具マンスリー(第25巻3号) 同研究所 平成4年6月
- 民具マンスリー(第25巻4号) 同研究所 平成4年7月
- 民具マンスリー(第25巻5号) 同研究所 平成4年8月
- 民具マンスリー(第25巻6号) 同研究所 平成4年9月
- 民具マンスリー(第25巻7号) 同研究所 平成4年10月
- 民具マンスリー(第25巻8号) 同研究所 平成4年11月
- 民具マンスリー(第25巻9号) 同研究所 平成4年12月

- 民具マンスリー〈第25卷10号〉 (同研究所 平成5年1月)  
民具マンスリー〈第25卷11号〉 (同研究所 平成5年2月)  
民具マンスリー〈第25卷12号〉 (同研究所 平成5年3月)
- 49 武蔵野女子大学仏教文化研究所紀要〈No.10〉  
武蔵野女子大学仏教文化研究所編 (同研究所 平成4年6月)
- 50 龍谷史壇〈第99・100号〉 龍谷大学史学会編 (平成4年11月)
- 51 龍谷大学仏教学研究室年報〈第5号〉  
龍谷大学仏教学研究室編 (同研究室 平成4年3月)
- 52 龍谷大学論集〈第40号〉 龍谷学会編 (同学会 平成4年6月)
- 53 立正大学人文科学研究所年報〈別冊第8号〉  
立正大学人文科学研究所編 (同研究所 平成4年3月)  
立正大学人文科学研究所年報〈第29号〉 (同研究所 平成4年3月)
- 54 歴史と民族〈9〉  
神奈川大学日本常民文化研究所編 (同研究所 平成4年8月)  
国際日本文化研究センター編 (同センター 平成4年)
- 55 *Japan Review* No.3 国際日本文化研究センター編 (同センター 平成4年)

密教文化研究所構成員名簿

所長(兼)	松長 有慶(文学部教授)
教授	村上 保壽
助教授(兼)	武内 孝善(文学部助教授)
〃(兼)	山陰加春夫(文学部助教授)
講師	乾 仁志
〃(兼)	中村 本然(文学部講師)
研究員(兼)	東 智學(文学部教授)
〃(兼)	越智 淳仁(文学部教授)
〃(兼)	蜜波羅鳳洲(文学部教授)
〃(兼)	森 寛勝(文学部特任教授)
〃(兼)	藤田 光寛(文学部助教授)
〃(兼)	山階 清隆(文学部特任講師)
〃(兼)	添田 隆昭(文学部非常勤講師)
〃	斎藤和佳子(ミラノカトリック大学留学)
事務局長(兼)	村上 保壽
補佐	甲田 博史
事務職員	後藤 雅則

堀畑 朝  
跡部 正紀

☆新任

事務局長(兼)	楠 公誠(学監)	平成五年四月一日付
講師	森 雅秀	平成五年四月一日付
助手	下松 徹	平成五年四月一日付
研究員(兼)	藤村 隆淳(文学部教授)	平成五年四月一日付

※退職

事務職員 北川美佐代(非常勤) 平成五年十月二十日付

※異動

事務職員 杉本 究(図書館職員) 平成五年四月一日付  
以上 平成五年十月 現在

## 密教文化研究所規定

## 第一章 名称及び所属

第一条 この研究所は密教文化研究所と名づける。

第二条 この研究所は学校教育法第六十一条及び高野山大学学則第三十九条に基づき高野山大学に附置する。

## 第二章 目的及び事業

第三条 この研究所は真言密教の蘊奥を究め、これを顕揚すると共に現在の社会に貢献するを以て目的とする。

第四条 前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- ① 研究の指導及び助成
- ② 研究及び研究成果の報告
- ③ 研究会及び講演会の開催
- ④ その他この研究所の目的達成に必要な事項

## 第三章 組織

第五条 この研究所の構成員を次のとおりとする。

- |        |     |        |     |
|--------|-----|--------|-----|
| ① 所長   | 一名  | ② 副所長  | 一名  |
| ③ 教授   | 若干名 | ④ 助教授  | 若干名 |
| ⑤ 講師   | 若干名 | ⑥ 助手   | 若干名 |
| ⑦ 研究員  | 若干名 | ⑧ 事務局長 | 一名  |
| ⑨ 事務職員 | 若干名 |        |     |

第六条 所長及び副所長は学長が選任し、理事会の承認を経て理事長がこれを委嘱する。

2 教授・助教授・講師・助手（以下教員）の新任及び昇補は、教員の新任及び昇補に関する規程に従い、学長の具申により理事長が承認の上これを任命する。

3 前項の規程は、別にこれを定める。

4 研究員は学長が所長と合議の上これを委嘱する。

5 事務局長は高野山大学学監がこれにあたる。

第七条 所長・副所長・助手の任期は三年とし、研究員の任期は一年とす

る。但し重任を妨げない。

第八条 所長はこの研究所を総攬しこれを代表する。副所長は所長を補佐し所長事故ある時はその職務を代理する。教員は各年度の研究課題に従い所長の命を受けて研究に従事する。

第九条 研究員は所長の依頼を受けて、特定の研究に従事する。事務局長はこの研究所の会計・庶務等の事務を掌理する。事務職員はこの研究所の事務に従事する。

## 第四章 教授会

第十条 この研究所に教授会を置く。

第十一条 教授会に関する規程は、別にこれを定める。

## 第五章 顧問及び賛助員

第十二条 この研究所に顧問及び賛助員を置く。

- ① 顧問は所長が学長とばかり理事長の承認を経てこれを委嘱する。
- ② 賛助員は所長が学長とばかりこの研究所の事業に賛助した者の中から理事長の承認を経てこれを委嘱する。

## 第六章 会計

第十三条 この研究所の経費は学校法人高野山学園予算・研究助成金及び寄附金をもってこれに充てる。

第十四条 この研究所の会計年度は、四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

## 第七章 規定の改廃

第十五条 この規定の改廃は、学長が所長とばかり理事長の承認を経て行つ。

## 附則

- 一 この規定は昭和三十三年四月一日より施行する。
- 一 この規定は昭和五十一年四月一日より施行する。
- 一 この規定は昭和五十九年四月一日より施行する。
- 一 この規定は平成二年二月十六日改定、同日より施行する。
- 一 この規定は平成三年二月十八日改定、同日より施行する。
- 一 この規定は平成五年四月一日改定、同日より施行する。
- 一 この規定は平成五年四月一日改定、同日より施行する。

執筆者紹介（掲載順）

村上 保壽 密教文化研究所教授

下松 徹 密教文化研究所助手

乾 仁志 密教文化研究所講師

森 雅秀 密教文化研究所講師

越智 淳仁 密教文化研究所研究員  
（文学部教授）

東 智學 密教文化研究所研究員  
（文学部教授）

ポール・ヴァンデン・ブルック

国際交流基金による高野山大  
学留学生

（ベルギー・ゲント国立大学  
日本語科助手）

編集後記

○当研究所の紀要第七号をお届けいたします。今回の紀要には、村上保壽、東 智學、越智淳仁、乾 仁志、森 雅秀、下松 徹、ポール・ヴァンデン・ブルックの諸先生の論文を掲載しました。なお、東、越智両先生の玉稿は、バングラデシユ密教學術調査報告です。

○弘法大師著作研究部門では、平成五年度は東寺観智院・京都国立博物館・大東急記念文庫・高野山靈宝館（その他予定として、仁和寺）で聖教調査を行いました。また、平成三年から上梓しております『定本弘法大師全集』は、第四回配本（第二巻『十住心論』）、第五回配本（第三巻『般若心経秘鍵』、『声字実相義』、『卍字義』、『即身成仏義』など）に向けて現在編集作業を進めています。

○「信仰と道」企画班は、年二回の実地調査を行っております。平成五年五月（第六回）は、大津越という古道を中心に、十月（第七回）は丹生都比売神社と天野周辺を探索しました。これらの調査報告は随時『高野山時報』の誌上にて行っています。

○その他の研究部門（学部共同研究）においては、同和研究会（本山同和局との関連事業）および、生命倫理研究会を開催し、研究発表等を行っています。ほかに、研究所では弘法大師著作研究部門の密教関係聖教類の調査協力、日本印度学仏教学会の論文データベース採取協力、紀要の発行、コンピューター導入による事務処理の機械化（購入図書、聖教類、マイクロフィルムなどの整理）等を実施しています。

○『密教文化研究所紀要』が益々充実し発展しますよう、今後とも諸先生の一層の御協力と御支援を賜りますようお願い申し上げます。（平成五年十月、Y・S記）

高野山大学密教文化研究所紀要 第七号

平成六年三月三日 印刷

平成六年三月十日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 松 長 有 慶

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野山高野山大学

電話 (073) 511511

印刷所 第一印刷出版株式会社

大阪市福島区福島七-13-11

電話 (06) 5581511

☎五五三